

(別記)

令和2年度 大月市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

大月市農業は、典型的な山間地農業であり、生産性の低い傾斜農地や小規模農地が大部分を占めている。その中で、作付については大部分が自家消費を目的とした水稻を基幹とし、他の農地は畑地や田を区別せず、野菜や花き・果樹などの生産にも利用されている。

大月市農業の生産構造は、依然として稲作を主体とした状況が続いているが、米以外の作物としては、転作田における大豆・小麦などの戦略作物やダイコン、ネギ類、白菜、パレイショなどの蔬菜類、コマツナなどの軟弱野菜、鑑賞用の花き類などが栽培されている。また、水田の有効利用を図るため、景観形成作物や戦略作物の作付に取り組んでいるものの、市内ほぼ全てが中山間地域という条件不利地であり、調整水田や自己保全管理などの不作付地が依然として残っている。地域が抱える課題としては、高齢化や人口減少による後継者不足の深刻化の影響で、耕作放棄地等の遊休農地が増加し、それに対応するため認定農業者や新規就農者などの育成をはじめとした担い手の確保が最重要課題となっている。しかし、市内農地においては営農を目的とした農業を行うには条件が悪く、課題の解決には農地面積あたりの単収の増加なども考え、農地の集積・集約化等を推進していく必要がある。

また、耕作放棄地等の遊休農地の増加に伴い、有害鳥獣による農作物被害の発生も問題視されており、それらについての対応も市内全域において推し進める必要がある。

さらに、生産性は低い首都圏からのアクセスは良いため、生産による収入以外にも目を向け、観光的な側面から農業経営の安定化を目指せるよう検討をしていく必要もある。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

当面、生産数量目標に沿った作付面積を確保するとともに、土壌に応じた基肥の施用、田植えの繰下げ対策の徹底、適正な植栽密度の確保など、高品質米生産にかかる技術対策を遵守しながら、生産体制の維持を目標とする。また、前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、消費者や実需者ニーズに即応した米の生産を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

現在市内では生産されておらず、今後は各生産者の動向を見極めつつ、必要があれば生産数量を確保する。それに伴い、産地交付金などの支援をしていく。

イ 米粉用米

現在市内では生産されておらず、今後は各生産者の動向を見極めつつ、必要があれば生産数量を確保する。それに伴い、産地交付金などの支援をしていく。

ウ 新市場開拓用米

該当なし。

エ WCS 用稲

該当なし。

オ 加工用米

地元の実需者から一定の需要が見込まれ、水田フル活用による不作付地の発生防止にも有効であることから、生産者及び実需者団体との調整を行いながら出荷数量の確保に努める。また、産地全体の信頼性向上や安定的かつ効率的な取組みとするため、需要の高い作付品種を推進する。

カ 備蓄米

該当なし。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆は、水稻に次ぐ基幹作物であるが、大月市においては特に大豆について一部地域において積極的に栽培がされ、中々の評価を受けている。今後も作付については現行を維持するとともに生産者の動向を注視し、必要があれば支援をしていく。

(4) そば、なたね

そば・なたねについては、生産をしている自家消費農家はいるが規模の大きい生産をしている生産団体等はいない。今後の動向を見つつ、必要に応じて適切に対応をしていきたい。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

高収益作物の野菜については、多岐にわたる品目が生産されている。今後とも生産者の作付の動向や要望などを注視し、それぞれの実情に適した作物などを率先して作られるように支援をしたい。

花きについては、品質の良さから需要は高く、引き続き高品質・安定生産を継続していくことを念頭に、市としても認定農業者として可能な範囲で様々な支援をしていく。

薬用作物については、栽培技術や栽培方法の改良・確立が必要な段階ではあるが、中山間地域や遊休地などの有効活用に役立つと見込まれ、安定的な生産量確保、販路の確保などの課題を整理しながら生産拡大を推進する。

(6) 畑地化の推進

予定なし。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	38.4	38.2	38.0
飼料用米	0	0	0
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0
WCS用稲	0	0	0
加工用米	0.6	0.6	0.6
備蓄米	0	0	0
麦	0.1	0.2	0.2
大豆	4.4	4.6	5.0
飼料作物	0	0	0
そば	0.2	0.2	0.2
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	50.0	50.3	52.2
野菜	45.3	45.5	47.2
花木・花き	1.0	1.1	1.3
果樹	3.7	3.7	3.7

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
				(○年度)	(○年度)
				(○年度)	(○年度)

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

なし